
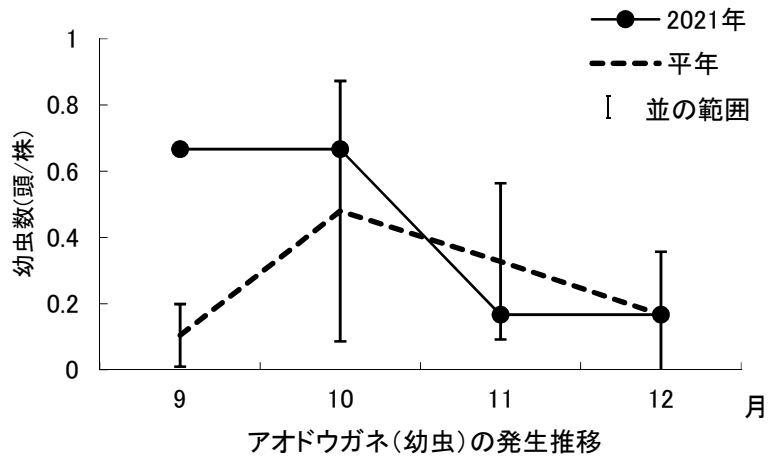


作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	アオドウガネ			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報	12 月からの増減傾向	-		
	1 月の発生量 (平年比)	-		
予報の根拠				

調査結果


今期と平年の推移



発生ほ場率 : 33.3% (平年値 : 27.0%)

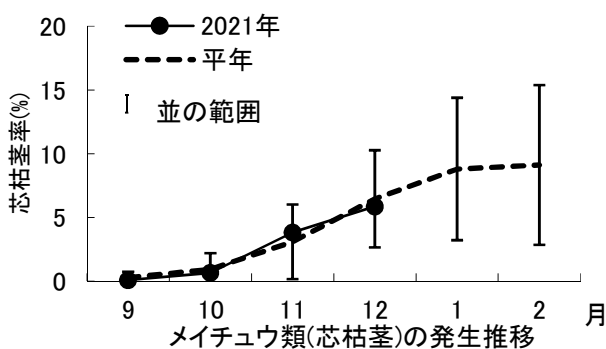
防除のポイント

- ・被害ほ場では早期に収穫し、直ちに碎土を行い、幼虫密度の低減を図る。

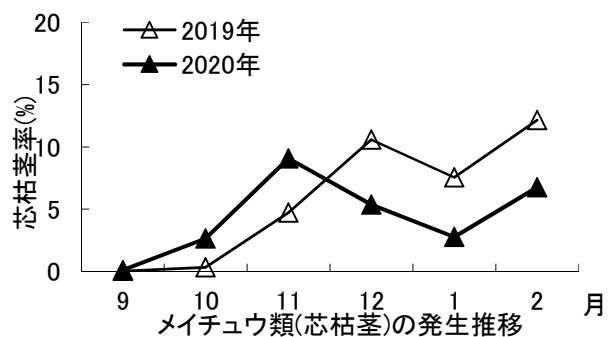
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	↗	
		1 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

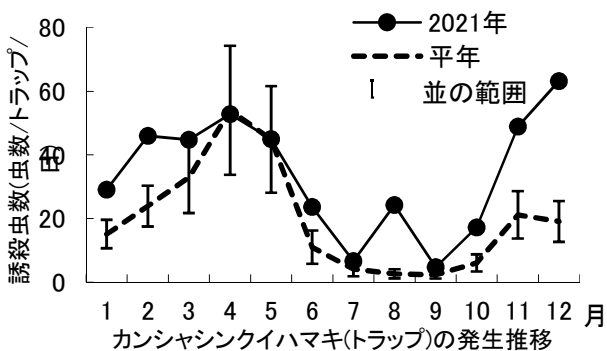
今年と平年の推移



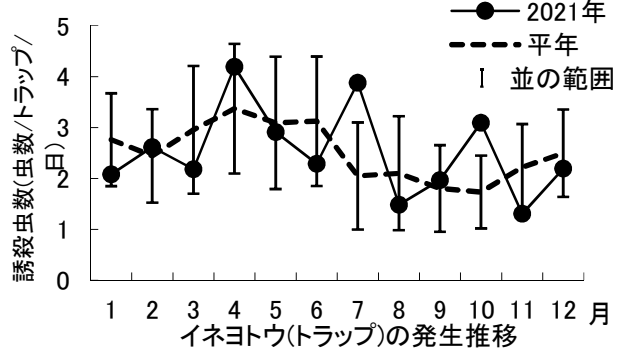
過去 2 年の推移



トラップ調査 (カンシャシクイハマキ)



トラップ調査 (イネヨトウ)




発生ほ場率：85.0% (平年値：72.8%)

茎内で派生したメイチュウ類のうち、84.6% (11/13頭) がカンシャシクイハマキ、15.4% (2/13頭) がイネヨトウであった。

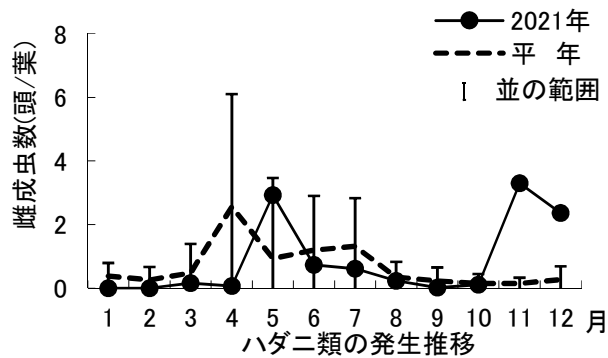
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

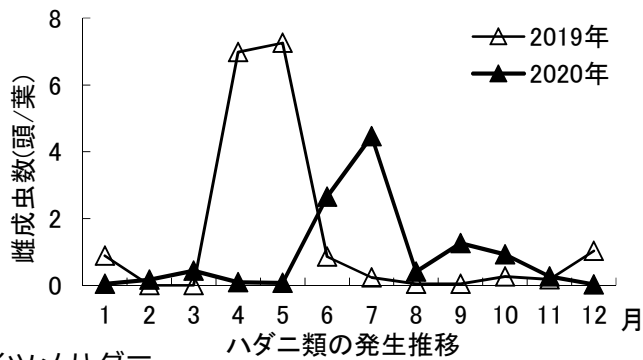
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	多	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年の推移




- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率：40.0% (平年値：25.5%)
- ※一部ほ場で多発生

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

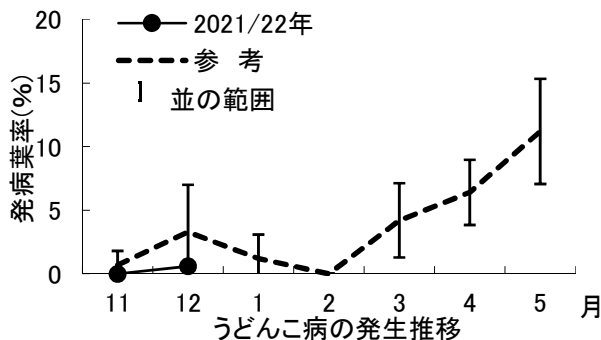


ハダニの寄生による葉のかすれ症

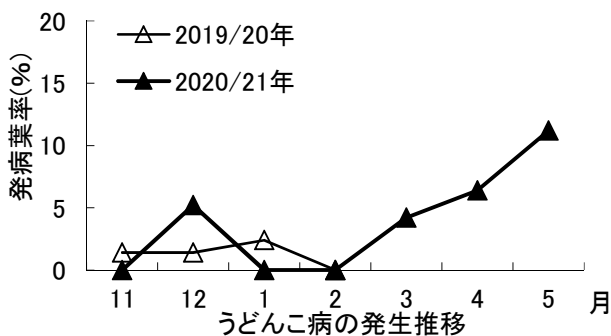
作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島	
病害虫名	うどんこ病			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)			—
予報	12 月からの増減傾向			—
		1 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠				

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



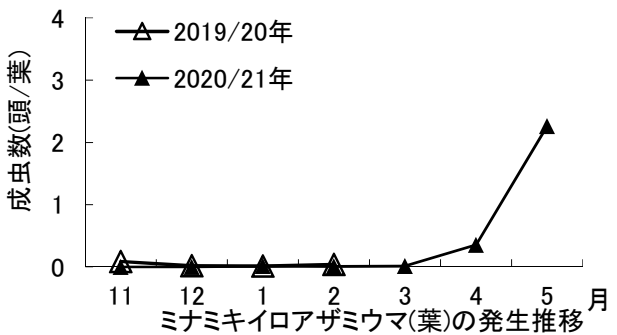
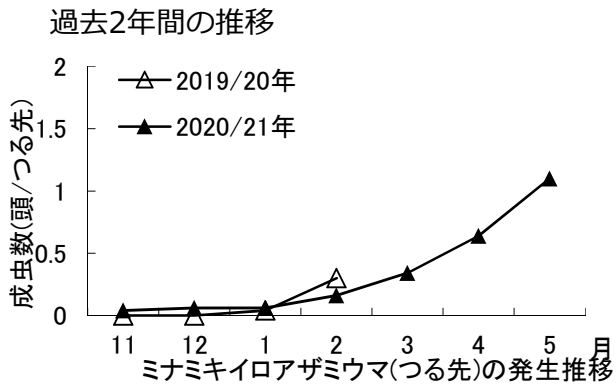
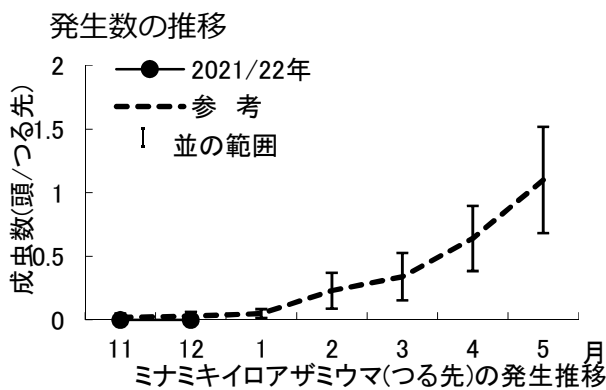
- ・発生ほ場率：20.0%（過去2年間の平均：50.0%）
- ・立体栽培でのデータの蓄積が不十分なため判定は行わず、調査結果のみ掲載

防除のポイント

- ・発生源となる不用な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- ・除去した葉はほ場内に放置せず、ポリ袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
- ・薬剤防除は予防散布に重点をおく。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	—	
予報	12 月からの増減傾向	—	
	1 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果



- ・発生ほ場率：0.0% (過去2年間の平均：20.0%)
- ・立体栽培でのデータの蓄積が不十分なため判定は行わず、調査結果のみ掲載

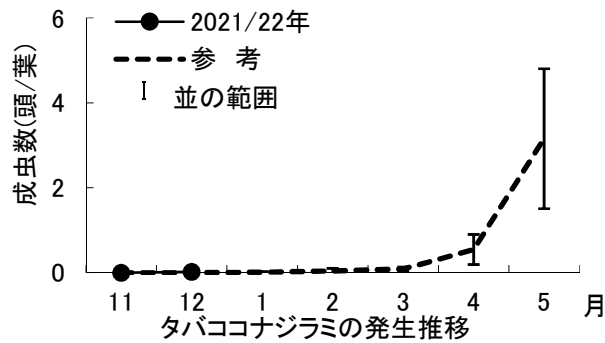
防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草は発生源になるので除草を行う。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先を観察し早期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

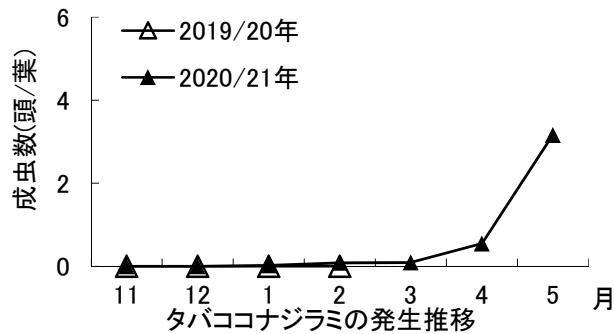
作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	—	
予報	12 月からの増減傾向	—	
	1 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

発生数の推移




過去2年間の推移



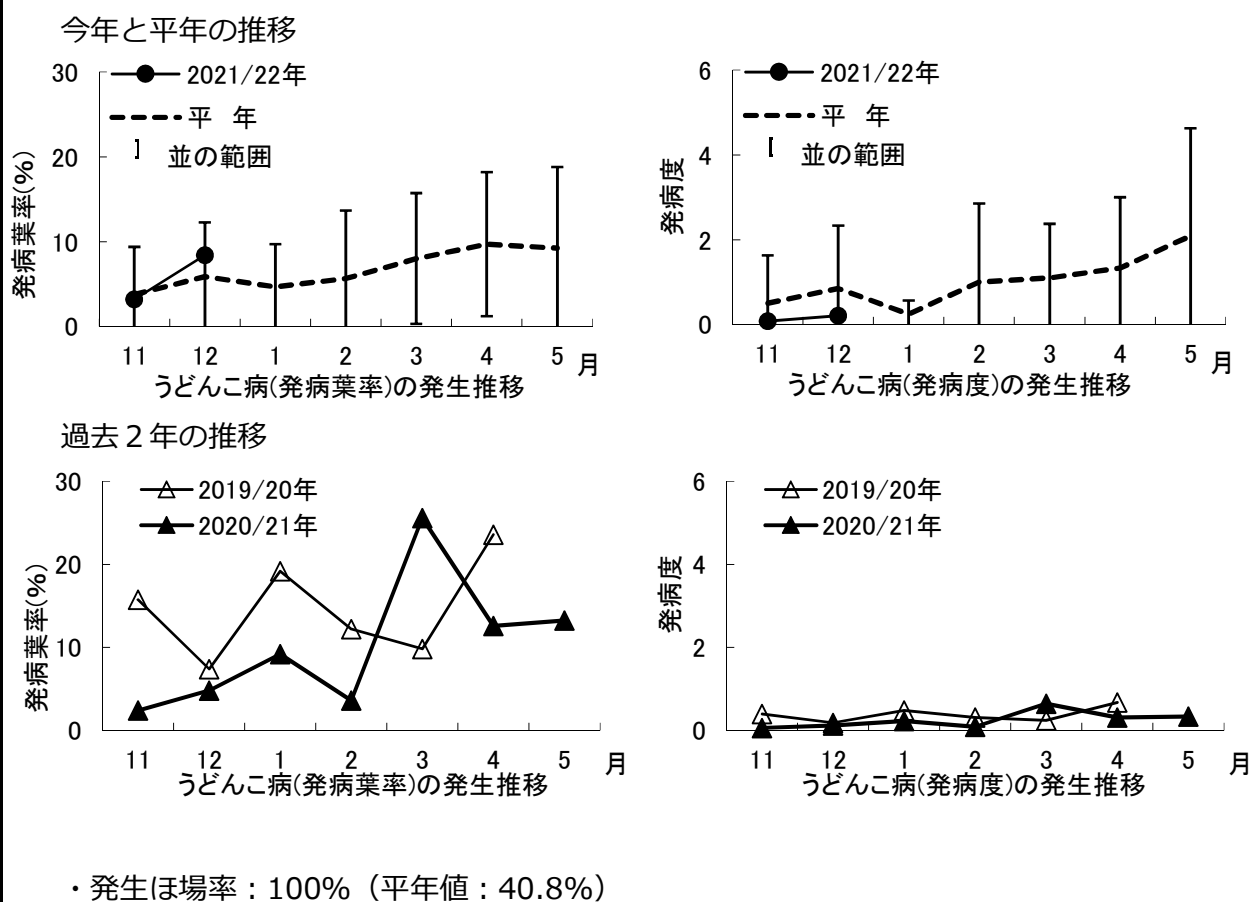
- ・発生ほ場率：20.0%（過去2年間の平均：0.0%）
- ・立体栽培でのデータの蓄積が不十分なため判定は行わず、調査結果のみ掲載

防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草は発生源になるので除草を行う。
- ・多発すると防除が困難になるので、葉裏を観察し早期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	↓	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	


調査結果



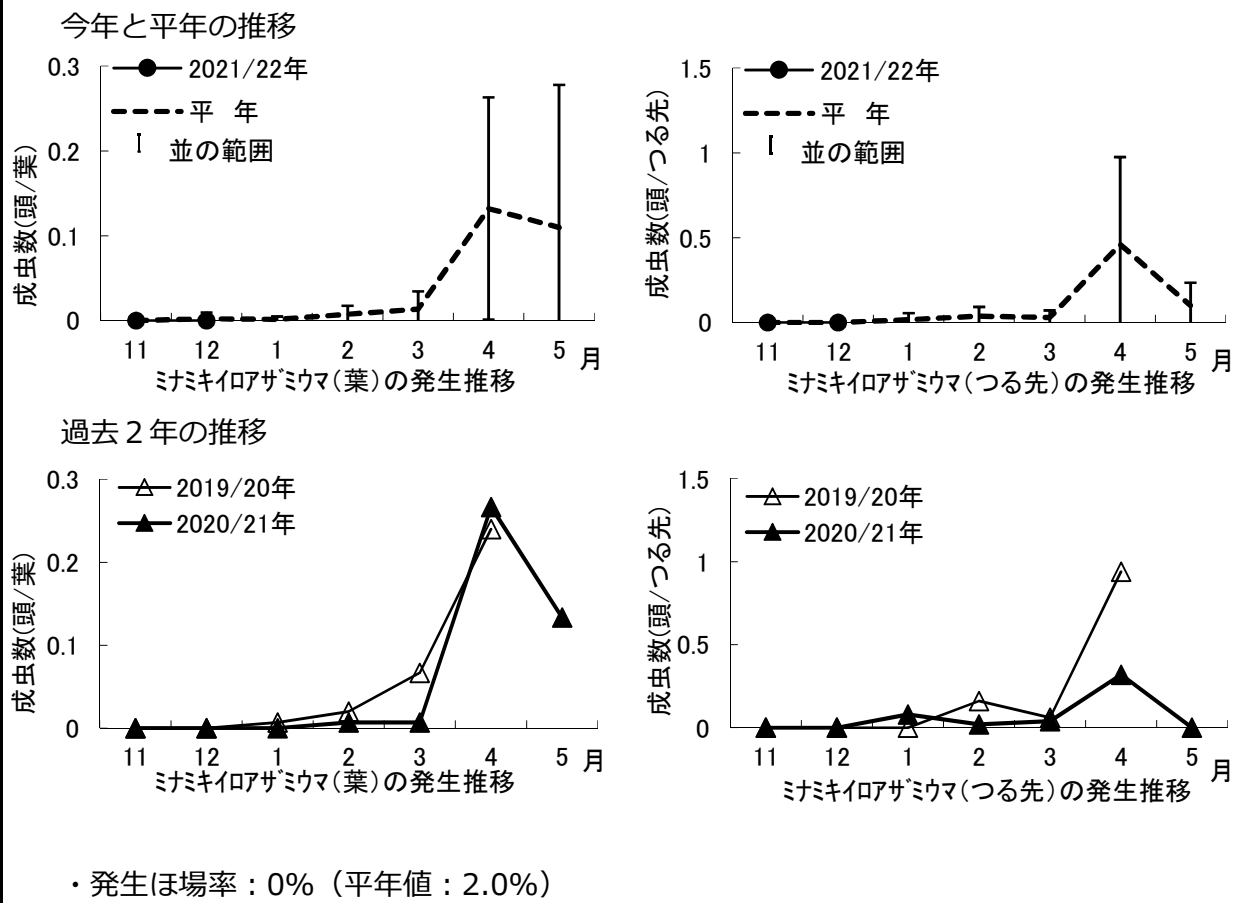
防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。



作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	ミナキイロアザミウマ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
		1 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果




防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

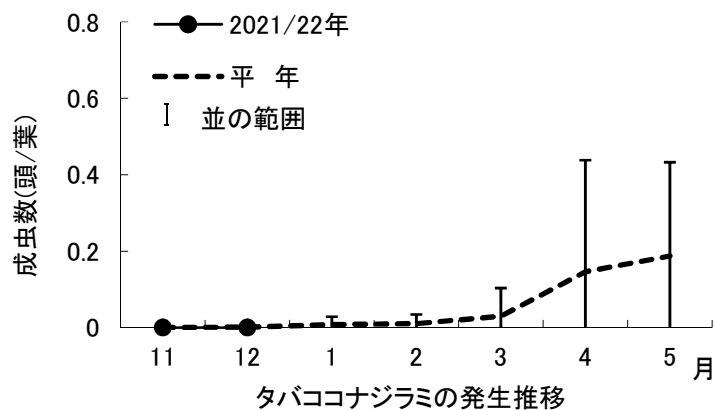




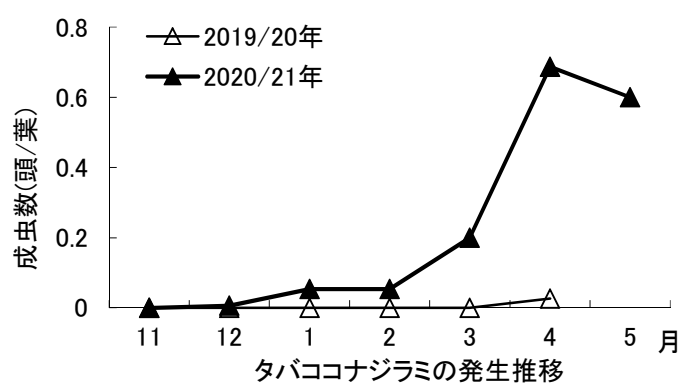
作物	ゴーヤー(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今年と平年の推移



過去 2 年の推移



・発生ほ場率：0.0% (平年値：4.1%)

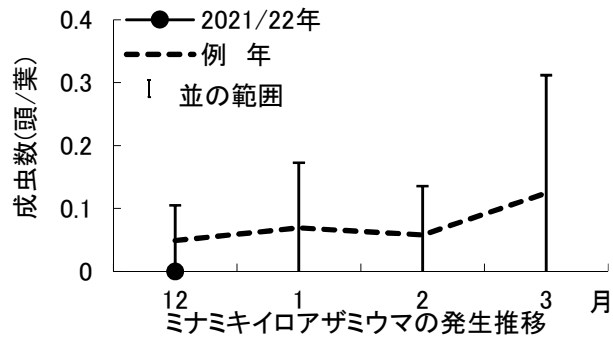
防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

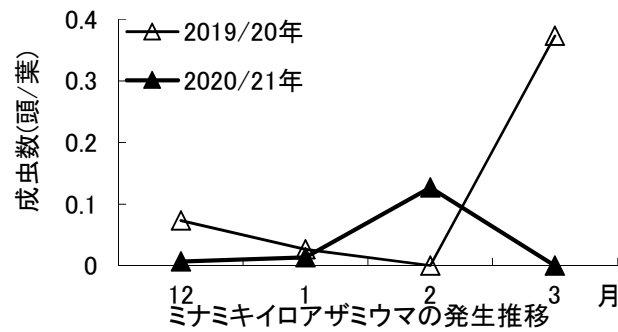
作物	さやいんげん(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：0.0%（例年：26.7%）

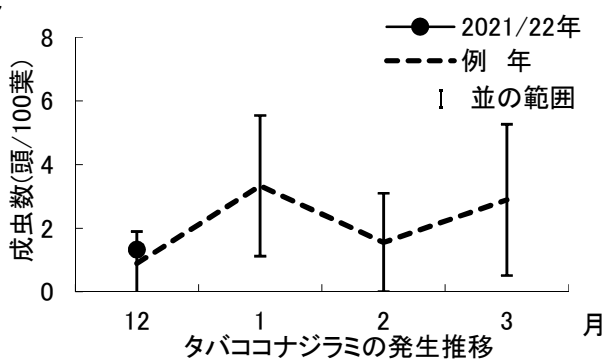
防除のポイント

- ・ほ場の出入口には二重カーテンなどを設置し、本種の侵入を防ぐ。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- ・多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

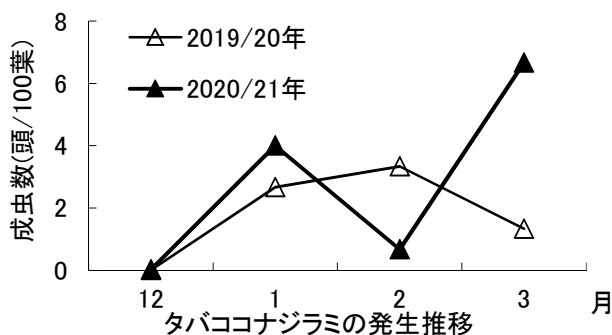
作物	さやいんげん(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	↗	
	1 月の発生量 (平年比)	並~やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



・発生ほ場率：40%（過去2年間：26.7%）

防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草は発生源になるので除去する。
- ・本種はさやの白化を引き起こすので、出入り口の防虫ネットを二重にするなどして、施設内への侵入を防止する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。  
また、薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や微生物農薬を使用する。